

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795400078		
法人名	株式会社 ケアサービス 豊見		
事業所名	グループホーム チャーがんじゅう		
所在地	豊見城市字与根 217-2		
自己評価作成日	令和4年 3月17日	評価結果市町村受理日	令和4年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4795400078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人や車の通りが少ない閑静な場所にグループホームがあり職員、利用者さんが、いつも明るく笑みが絶えない温かなふれあいを大切にしています。利用者さん一人ひとりのペースや個性、気持ちを大切に、おやつ作りや家事を手伝って頂きながら充実感が持てる家庭的で安心して暮らせる雰囲気を作っています。一日の中で散歩や日光浴を楽しんで貰いながら花、野菜の成長が楽しめるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置する当事業所は、管理者と近隣の住民、会社企業との良好な関係づくりが特徴になっている。管理者は施設前の道路沿いの掃き掃除などの最中に、隣の民泊施設のオーナーと顔見知りになり、畑で収穫した野菜を差し入れる間柄となっている。事業所の目の前の企業の社員と声を交わす頻度も多く地域に根差している。利用者の個性に合わせた介護の取り組みに特徴があり、花が好きだった方と一緒に花や菜園への水かけを行ったり、梅シロップが飲みたいと希望があった際には工程を一つ一つ確認しながら利用者と一緒に作る等、個性を大切にした支援を行っている。居室への入室やトイレ介助時においても「入りますよ」と声かけ、居室にはドアやのれんを使った利用者に合わせたプライベートへの配慮がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝の朝礼で職員と唱和しています。	毎朝の朝礼で唱和することで、理念を意識して日々の介護に活かすことができている。職員は利用者一人一人、それぞれにあった介護を考えることができている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に住まいの方と近隣の利用者家族が雑談を楽しむ場が作れている。	管理者と近隣の住民、地域の企業と顔見知りになっている。管理者は施設前の道路沿いの掃き掃除などの最中に、隣の民泊施設のオーナーと顔見知りになり、畑で収穫した野菜を差し入れるなど良好な関係を築いている。今後、避難訓練などの際には声をかけて参加協力をお願いしていく予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の機会に知り合いだからと声を掛けられることがある。地域の中で暮らしているからこそ繋がりが保たれていると思う。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では、コロナ禍で取り組めていません。	過去一年間に一度も開催しておらず書面での代替えや電話での聞き取りといった取り組みも実施していない。	早急に運営推進会議の開催に向けた取り組みを始め、開催の阻害要因となっていた課題を解決しつつ、関係機関や他者の協力を仰いで早期開催への道筋ができることを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括から利用者紹介を受ける事がある。その際、サービス内容の説明を行っています。	コロナ関連の事業所での感染対策、コロナワクチン接種の情報など行政担当者に電話連絡を行い収集に努めている。運営推進会議に関するやりとりは双方ともに実施していない。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から玄関のカギはかけず利用者を見守る体制を整えています。	身体拘束などに関する指針・マニュアルの整備が確認できている。また3ヶ月に一度の身体拘束適正化の検討委員会の実施記録が整備されている。職員間での話し合い、資料を使っでの研修を実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会の際、言動に注意しているか振り返り職員同士で確認をしています。	虐待の防止に関するマニュアルの整備がされ、職員間で資料を活用しての研修の実施、また日々の実践の中で職員が利用者への言葉使いに配慮できているかを管理者は見守っている。管理者は職員の体調面にも気を配っており、心身の不調から不適切なケアに繋がることを理解している。勤務体制やシフト調整、相談がしやすい雰囲気づくりに注力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する認識が足りず、積極的に研修への派遣や学習する機会が必要です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を分かりやすく説明し、重要事項説明書を口頭で読み合わせ説明、利用者さんや家族が納得した上で契約書を交わしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し出方法を説明し、ご家族が来所時や電話等にて意見を聞いて可能な限り要望に近づけています。	利用者の体調面の変化がみられる時に不安を軽減するため、家族への連絡をこまめにいれるようにしている。一般的に家族は事業所側に意見を言いにくい心理状況であることを踏まえて、日々のやりとりの積み重ねから管理者は話がしやすいような関わりを意識して意向をくみ取れるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に要望があれば反映しています。	管理者は普段から職員から声をかけやすい関わりや、雰囲気づくりに努めている。職員の業務負担軽減に繋がる備品購入は、積極的に行っている。最近では体調を理由にデイルームに出れない利用者に対して居室ベッドで食事介助が行いやすいようオーバーテーブルを購入している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ報告し労働時間や勤務形態の相談に応じたり、能力や努力に応じた報酬が得られるよう取り組みます。	就業規則が整備されており年次有給休暇、ハラスメント対策などが明記されており、職員の働く環境整備に努めている。	健康診断の早期実施を期待する。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修派遣が難しい場合、施設内部で行える取り組みに努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会が開催する研修への派遣や施設見学に行けるよう努める。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議に本人、家族さんの意向や要望を伺い日頃の会話や行動から、不安にさせないように支えています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんから得られた情報を検討して努力に努め信頼関係を築く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、事前の実地調査で本人の状態把握に努め本人、ご家族さんが必要としている支援の手助けをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り、自立した生活を目指すために対等の立場で関係作りが行えるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活や身体状態の情報を報告した際、ご家族さんの意向なども確認して本人さんを支えていく関係作りに努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々との交流を深めていく。	利用者の面会については玄関、デイルームの窓越しに可能とし、電話での会話を行っている。散歩を日課にしている利用者は道で偶然出会う知り合いと挨拶を交わすこともある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や外出した際、家庭的な雰囲気が作れるよう関わっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談等あれば助言を行う事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の意向を把握するよう努め、個々の思いを職員間で情報を共有し実践に繋げる。	意思の表出ができる方には会話の中から意向や思いを把握するよう努めている。意思疎通の難しい方に関しては家族からの聞き取りを中心として情報を得ている。若い頃は人前に出る際はみだしなみを大事にされていたという話を家族から聞いた利用者に対してはより丁寧な配慮を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さんや入居前の介護支援専門員から情報収集をして職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼の健康チェックで体調の確認を行い職員間で情報共有をしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者会議の場で本人、ご家族、計画作成担当者、職員が参加し主治医の助言を反映して作っています。	計画作成者は半年に一回モニタリングを行い、更新時期、状態の変化、入退院直後には計画の見直しを実施している。職員間では申し送り簿、日々の実践を通して、薬の変更、ADLの変化について情報の共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を職員間で情報を共有しながら改善、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人さんの状況に応じて訪問診療、訪問マッサージを取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方からのおすそ分けの野菜を食事作りに利用する事もあります。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態が安定している方やご家族さんからの希望があれば訪問診療へ繋げた方や必要に応じて職員が受診同行をしています。	訪問診療を4名の方、それ以外の方は馴染みの病院で受診をしている。受診の際は家族や職員が同行を行い、主治医へ症状の変化を伝えるように心がけている。日々の観察から胸のしこりを見つけガンの早期発見につながったケースがあり、主治医との情報共有が行えるように心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション看護師へ職員から身体状態を説明し緊急時対応の体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が悪化しないよう早期の段階で健康状態の相談をしている。入院中、基本情報、アセスメント等の情報提供を行う。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の内容をご家族へ説明し同意を頂いています。	重度化や終末期に向けた方針を入居前に説明しており、同意を得ている。昨年1名の方を看取り、主治医と情報共有や相談をしながら、指示のもと対応を行った。また、2週間毎日訪問看護が入り、本人は穏やかに天寿をまっとうされた。職員への精神的フォローについては終末期に向けた勉強会やインターネットから情報を得て、職員へ共有する等を行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通して緊急時の対処法を学び緊急連絡先搬送先へ周知させていく。	事故発生時の対応マニュアルの作成があり、職員へミーティングを通して共有を行っている。各居室内には利用者個々の既往歴や緊急連絡先と病院先の情報が準備されており、緊急時にすぐに対応ができるように工夫がされている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	最近では取り組めていません。これからの課題とします。	昨年度に挙げたステップ事項の年2回の昼夜を想定した消防避難訓練の実施、消防設備の点検、備蓄リストの作成が確認できなかった。3日分の備蓄があり、災害時への備えがされている。職員間での消火器の置き場所や避難誘導口の周知がされており、火災や避難について意識付けが行えている。	昨年度同様、年2回の昼夜を想定した消防避難訓練の実施、消防設備点検、備蓄リストの作成が確認できなかった。次年度の開催が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんへの言葉がけに配慮し自尊心を傷つけない事、又、排泄時に配慮しています。	居室への入室やトイレ介助時は、「入りますよ」と声かけ、居室にはドアやのれんを使った利用者に合わせたプライベートへの配慮がされている。入浴には基本同性介助での対応を行うことで羞恥心への配慮も行っている。カメラ設置が2箇所あり、特に夜勤時、利用者のセンサーマットだけでは把握できない部分の対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人さんが混乱したり自己決定が出来ない場面で助言をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースや個性を大切に楽しめるよう関わっています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整容で身だしなみを整えたり自身で衣類を選んで貰っています。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする職員にアドバイスをしたり野菜の処理やもやしの髭を取ったりエプロンを洗ったりして頂く	朝と土日は職員が食事を調理し、平日の昼と夕は食材配送の業者へ注文して提供を行っている。下準備や後片付けを2～3名の利用者が職員と一緒に行うことができている。週2回はおやつレクを行い、以前自営業にて飲食店をしていた方を中心にホットプレートを使い調理を行い利用者の得意分野を引き出す支援を行っている。コロナ感染予防の為、利用者と一緒に食事することは避けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量に記録し職員間で摂取量の把握をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアは欠かさず行い、週3回は、夜間に洗剤で保管する。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯を把握し失敗を減らす努力をして本人さんが気持ちよく出来るようにしている。	日頃からの動作に注意し、声かけを行うことで気持ち良く排泄ができるように利用者への支援を行っている。利用者によっては精神疾患があるため、無理に誘導するのではなく時間帯や声かけを工夫し対応している。オムツを使用している方はおらず、リハビリパンツを使用している利用者がほとんどであり、現状維持を目指して支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際、野菜を多く取り入れたり一日の目標水分量を取り入れています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる際は、後で声掛けをしたり職員の変更をするなど対応している。	基本は週3回の午前中の時間に入浴支援をし、入居時に利用者や家族に了承を得ての対応を行っている。入浴拒否があった場合の対処は、時間をずらして対応や本人の好きな音楽をかけて入浴をする等、利用者の気分を損ねることのない支援を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に合わせ畳間の設置やベッ ト上を綺麗に整えるなどしている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化や内服薬の変更があれば申し送りノ ートを活用したり朝の申し送りで情報共有をして います。	服薬マニュアルが整備され、病院受診後にお薬 情報を管理者が確認し、薬をそれぞれの利用者 ごとにセットをしている。朝の申し送りと申し送り ノートにて職員へ情報共有を行い、与薬はダブル チェックができるように二人の職員で確認し、 飲み忘れや誤薬等がなく支援を行っている。利 用者の日頃の発言や行動を観察し、主治医へ相 談する事で薬の変更等につなげている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	職員と話し合いながら計画を作り本人、ご家族さ んから望んだ生活を聞き出し計画を作っていま す。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。又、 普段は行けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支援している	一日の内、外で日光浴や散歩ができる時間を作り 天気の良い日ドライブに出かけられる取り組み をしています。	コロナ禍にて積極的な外出は行っていないが、 毎日外気浴を行い気分転換を図っている。ま た、二か月に一回程度、瀬長島へのドライブや 数名の方は近所と一緒に散歩するなど、個別の 外出支援を行っている。お正月に自宅へ帰宅し 家族との時間を過ごされた方や病院受診時、家 族と外食することで気分転換を図ることができ ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援し ている	本人さんにお金を管理して貰い気持ちを整えら れるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんから希望があれば何時でもご家族さんへ連絡をしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけをしています。	季節の飾りつけを行い、季節感を味わうことができるよう工夫し、西日が強過ぎる時にはブラインドを使うことで室内の明かりに配慮している。利用者の情緒に合わせて音楽をかける事で心地よく過ごせるように気を付け、テレビ前にソファを置き、長く車いすに座位させず、足を伸ばせるようにソファに移ることで褥瘡予防とリラクゼーションを図れるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や外へベンチを設置し落ち着いて過ごせる場所を提供しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人居室内にご家族さんとの写真を飾り家族との繋がりが保てるようにしている。	居室には家族との写真やカレンダー、花の好きな利用者は家族が毎週届けてくれる等それぞれにあったプライベート空間を作れるよう配慮がされている。基本的にベッドが居室に備え付けられているが、自宅での環境を考慮し、畳上で就寝できるように畳を敷いて個別に対応したケースがあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんとの関わりの中で元々、身に付いている力を引き出せるよう支援をしています。		

目標達成計画

作成日: 令和4年6月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	早急に運営推進会議の開催に向けた取り組みを始め、開催の阻害要因となっていた課題を解決しつつ、関係機関や他者の協力を仰いで早期開催への道筋ができることを期待する。	事業所の運営について広く知って貰い専門的な立場から意見が聞けるよう努める。	人員の確保、業務の分担を見直し運営推進会議の開催を早急に行う。会議の開催方法を関係者が参加しやすい方法で行う。	2ヶ月
2	12 (9)	健康診断の早期実施を期待する。	職員の健康維持管理のため健康診断を実施しストレスチェック、健康相談等、働きやすい環境作りに努める。	職員全員の健康診断の実施。夜勤勤務に就く職員については年2回の健康診断を行う。	1ヶ月
3	35 (16)	昨年度同様、年2回の昼夜を想定した消防避難訓練の実施、消防設備点検、備蓄リストの作成が確認できなかった。次年度の開催が望まれる。	職員がいざという時の為にマニュアルに沿えるよう消防署員立ち合いの下、避難訓練を行う。また、訓練実施の際は、地域住民への参加の呼びかけを行う。	年2回の消防避難訓練を行う。消防設備等を定期的に点検し火災などの際に確実に作動するよう維持、管理を行う。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。